



企画展「海をめぐる歴史」 を開催します

現在の岡山市域は児島湾に面しており、さらに瀬戸内海を通して外海とつながっています。この海の恵みを楽しみながら織りなされてきた地域の歴史を知るため、当館が所蔵する絵図や文書や古写真などから、海を場として営まれてきた歴史や暮らしにかかわる資料を展示します。

1 日時

令和8年7月9日(木)～8月26日(水)

休館日:毎週平日の月曜日(7月20日(祝)は開館します)

開館時間:10時～18時(毎週木曜日は11時～19時)

2 場所

岡山市立中央図書館(北区二日市町) 2階 視聴覚ホールの中の展示コーナー

3 内容

海をめぐる営まれてきた人々の暮らしの中から、漁民、商業民、農民にそれぞれ関係の深いものとして、漁撈、航海、開墾(干拓)の3つを題材に選び、関連する資料を展示します。

児島湾内に設けられていた漁場の図や、港湾内から瀬戸内海へ通じる航路の図、干拓によって開墾され、農地に変わって行く海面の図など、近世から近代にかけてのさまざまな絵図からは、岡山平野で暮らす人々が近海へ進出し、海を開発しながら生活圏を広げてきた様子がわかります。この展示では、私たちひとりひとりの日常の感覚を越えた長い歴史の時間を見つめ、人為と環境の関わりや、その中で営まれてきた暮らしの移り変わりを考えてみます。

4 関連の歴史講座

「児島湾の昔の暮らしを知る資料」 令和8年8月1日(土) 14時～16時

会場:岡山市立中央図書館 2階 視聴覚ホール(参加自由、聴講無料)

講師:岡山市立中央図書館 主査学芸員 飯島章仁

【問い合わせ先】

岡山市立中央図書館 飯島・杉野 直通086-223-3373

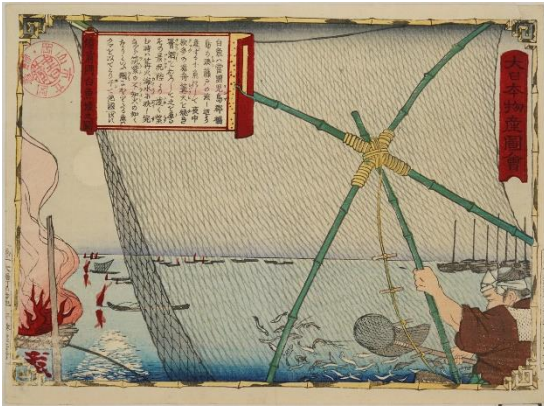


おもな展示品



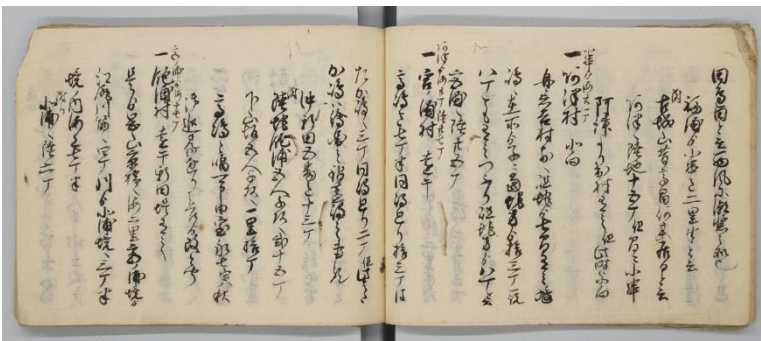
〔児島湾の漁場の図〕

興除新田が開かれた文政 6 年(1823)以前とみられる児島湾の図で、海の中に溝(海底の水路)と、漁の仕掛けの位置が描かれています。



「備前国白魚漁之図」

明治 10 年(1877) 錦絵集「大日本物産図会」の 1 枚で、厳寒期の児島湾の名産として全国に知られていた白魚の漁の様子が木版の多色刷りで描かれています。



「船路記」(または「浦辺記」)

寛政 4 年(1792) 備中国と備前国の海岸の村々について、位置、船数、他村との距離などが列記されています。



〔備讃瀬戸の図〕

江戸時代の備讃瀬戸の図で、上が南(四国)です。下津井と塩飽諸島の間をって東西に引かれている朱線が航路の幹線を示しています。